業務を見直し スッキリ勤務

～ 教員の多忙化を解消し、子どもと向き合う時間を確保するために ～

教員の多忙化

平成１８年度、文部科学省が全国の小中学校及び高等学校を対象に行った教員勤務実態調査によれば、小中学校教員の１か月あたりの残業時間は約３４時間であると報告されています。昭和４１年度に行った同様の調査に比べ約２６時間の増加となっており、増加した主な業務内容としては、「事務的な業務」、「生徒指導」、「補習・部活動等」があげられています。

現在、学校現場では、社会構造の急激な変化への対応、家庭・地域社会の教育力の低下に伴う学校や教員に対する過度の期待、子どもの学ぶ意欲や学力の低下、いじめや不登校等の複雑化・多様化した課題等を背景として、多忙感を抱いている教員が少なくありません。

子どもと向き合う時間を確保するとともに、教員の心身にわたる健康の保持に向けて、今、日常の業務を見直し、多忙化の解消を図ることが必要です。

職員会議や
打ち合わせが長い

調査の回答など
提出文書が多い

前年度までのデータが
整理されていない

下校パトロールがあって
授業準備ができない

部活動の時間が
長すぎる

各種名簿等の作成
に時間をとられる

指導案の内容が細かく
負担になっている

業務の見直し

平成２３年３月
千葉県教育委員会